

加西の教育の今後について



深田 真史 議員
(自由民主党・無所属の会)

学校再編・統廃合について

問 現在の進捗は。

答 市民アンケートを実施する段階で、スケジュールを見直す必要があるとの議論になりました。内部議論の結果、現時点で市民意見を集約する作業や在り方案を作成する作業を兼ねて、有識者を含めた委員会を設置する方向で見直しています。

問 市長自ら何校に絞るとか、踏み込んだ案ができていますのか。たたき台を示して。

答 (市長) とくに頭の中ではできておりますし、教育長にも申し上げております。それなりに煮詰まってきたんです。「あり方委員会」は1年やっていくので、必要な時期に小・中学校は何校、将来どこに造るか提示し、議論いただきます。

北条高校について

問 3回目となる1クラス増の署名を出しているが、県教育委員会の回答は。

答 増やすと当然言えないが、地域の強い思いを真摯に受け止め、今一度検討したいとの回答でした。ただ、生徒数の減少に

より、高校規模の適正化を進めると県教委は表明しているため、その発言を正面から受け止めることはできないと思います。

問 この際、加西市として北条高校と播磨農高との統合を視野に、計画を立てる必要があるのでは。

答 北条高校活性化協議会の活動は、市費を投入していますが、側面支援の域を出ることはありません。市として、最も適切な事業が何か見直し、支援していきます。



コロナ禍における学校運営について



丸岡 弘満 議員
(自由民主党・無所属の会)

問 令和3年度からの中学校保健体育教科書では、スポーツや防災、医療等の発展に貢献した偉人として、柔道の父と呼ばれた嘉納治五郎氏など多くを紹介し、学ぶようになっている。教科書に載っている偉人だけでなく、大谷武一氏の功績を一緒に教えているのか。日本オリンピック委員会公式HPでは、ソフトボール・ハンドボールの日本での競技の歴史として、「大谷武一氏が学校体操科の遊技として紹介したのが始まりです。」と紹介している。また、

学習指導要領では競技の特性や成り立ちの理解に関する指導が求められているが、専門家からは、実技指導に比べて教え方が十分に蓄積されていない実態があると指摘されている。

このようなことから、教科書を使って、大谷武一氏の功績を市内中学校で教えるべきと考えるが。

答 地元賀茂小学校では折に触れて話をしていますが、運動会や体育大会のラジオ体操の際に紹介している学校も多くあります。かつては雨の日の授業で保健体育や競技の説明をしていましたが、現在は生徒一人一台のPCを体育の授業でも使用し、映像による種目の説明等を行っており、その場面での指導がよいのではと感じています。学校現場に紹介し、様々な機会に大谷武一氏を紹介したいと考えます。

問 特別支援学校の遊具がユニバーサルデザインではない。体育の様子を見る限り、体力づくり、挑戦する気持ちや達成感、自主性や外で遊びたいと思うような遊具なのか疑問に感じる。

答 大事に使っていますが本当に古くなり、危険な物や使用が難しい物もあります。支援学校のどこを見ても、ユニバーサルデザインになっていると思われる施設でないといけなないので、順次遊具の入替えも考えていきます。

意見 泉よつばこども園の運動場が全面凸凹で水たまりが多く、施設管理ができていないので改善をしていただきたい。また、西在田小学校が取り組んできた環境学習は、国内初のグリーンフラッグ取得という大変すばらしい取組だが、ユネスコスクールに加盟申請してはどうか。